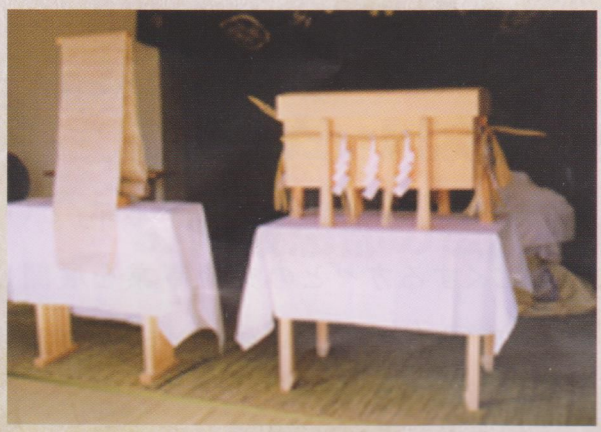
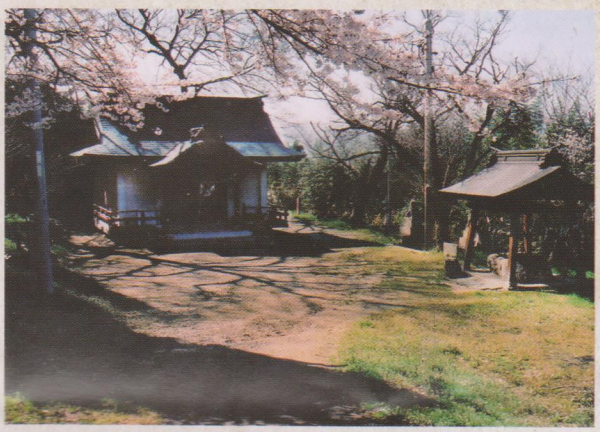
日本の原点を見つめ未来を創る

徳島と日本各地を拓いた阿波忌部





一般社団法人 忌部文化研究所

まえがき

2018年（平成30）4月に一般社団法人 忌部文化研究所は設立されました。「忌部」とは古代日本におけるマツリゴトに携わった氏族です。その中でも阿波忌部は、阿波の国を拓き、徳島の農業・産業・文化・精神の柱を築きました。また、日本の国づくりに大きく貢献し、日本各地に多様な農業・産業・生活文化を伝えたことが語り継がれています。その忌部の精神は、後世に受け継がれ、日本人のこれからの道標となっています。

ただ、一般的に「忌部」とは何かと質問しても、答えられる人は、ほとんどいないのが現状です。

そこで「忌部」を分かりやすく説明し、社会人のみならず学生の方にも理解していただく啓発の一環としてこのパンフレットを製作しました。

世界的な激動・混迷・危機の時代を迎え、私たち日本人は今一度「日本の原点とは何か」を見つめ直し、そこから新たな社会を創造する時期にさしかかっていると思います。このような風潮の中、忌部文化研究所は「日本の原点を見つめ未来を創る」の指針のもと、「忌部」というキーワードを通じた研究・啓発・提言活動を行い、志を同じくする方々との交流事業を展開し、新たな日本の未来を創る活動を展開していきます。その理解を助けるパンフレットとして活用くだされば幸いです。

阿波忌部の日本各地への進出（3～4世紀と想定）

目次

1. 忌部氏とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2. 阿波忌部とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

3. 徳島と阿波忌部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

4. 阿波忌部と天日鷲命・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

5. 天皇即位の大嘗祭と阿波忌部・・・・・・・・・・・・・・ 6

6. 阿波忌部と徳島の産業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

7. 伝えたい阿波忌部の精神・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

8. 阿波忌部の伝統農業が世界農業遺産に!・・・ 9

1. 忌部氏とは

忌部氏は、祖神を天太玉命とし、古代において大和朝廷の宮廷祭祀（豊穣・平和の実現・災害・疫病防止・子孫繁栄などを祈る＝マツリゴト）とあわせ、祭具（神様にお祈りするための道具）や神殿を造る職務を司った氏族でした。中央忌部は、奈良県橿原市忌部町に式内大社「天太玉命神社」を祀りました。

2. 阿波忌部とは

阿波忌部は天日鷲命を祖神とし、麻や穀（楮）を植え吉野川流域の粟国（阿波国）を拓きました。『日本書紀』には穀の繊維で神具の木綿（織布）を作る木綿作者とあります。阿波勢力（後の阿波忌部族）は、ヤマト王権の成立に大きな影響を与え、日本各地へ進出して産業の基盤となる麻や穀を植え、農業・養蚕・織物・製紙・建築・漁業などの技術を伝えました。阿波忌部が麻を植えた地は「麻植郡」（現在の吉野川市）と呼ばれました。

3. 徳島と阿波忌部

[1] 忌部の歴史を伝える県民歌

- 戦前の県民歌（阿波国の創生にまつわる歌詞）

  一. 陽は匂ふ国 阿波の国 <u>忌部海部</u> 名にふる代より　うけつぎて　われらにいたる
  南国の光をあびて とどろくうずしおと沸く血 見よこの脈管にたぎれり 勢へ 徳島県民 今日ぞ

- 佐那河内中学校の校歌（阿波国の創生にまつわる歌詞）

  三. <u>忌部海部の手と手をつなぎ</u> 南北文化の力をあつめた 血脈この地に受けて 真理を探り
  平和を築き 名誉あがる 佐那河内村中学校

[2] 阿波国（粟国）の由来と阿波忌部

吉野川中流には日本最大の川中島となる善入寺島があり、かつて忌部の神が住む粟島（写真右）と呼ばれていました。そこに阿波忌部が粟を植えると良く実ったので粟島・阿波郡となり粟国（阿波国）と呼ばれるようになったと云われています。

[3]「忌部神社」は徳島県民の氏神

徳島市二軒屋町の「忌部神社」(写真右)の由緒には、忌部族は徳島県民の祖神である天日鷲命を祀り、古代より阿波国の総鎮守であったと書かれています。「忌部」は徳島県民の氏神でした。

[4]徳島県は古代より忌部王国

平安時代の『延喜式』神名帳という朝廷ゆかりの神社を見ると、吉野川流域の大社3座すべてが忌部氏に関係する神社となっています。

- 「忌部神社」(吉野川市山川町忌部山) 祭神は天日鷲命。麻殖神、天日鷲社と呼ばれた。(写真一番左)
- 「大麻比古神社」(鳴門市大麻町板東) 祭神は大麻比古神(天太玉命と同神)、阿波国一宮。(写真左から2番目)
- 「天石門別八倉比売神社」(徳島市国府町矢野) 天石門別神は太玉命の孫。(写真右から2番目)
- 「五所神社」(忌部神社)(つるぎ町貞光字吉良) 祭神は天日鷲命。(写真一番右)

4. 阿波忌部と天日鷲命

[1] 阿波忌部族の墳墓

阿波忌部が麻を植えた故事による鳴門市大麻町の大麻山の麓には、ヤマト王権の王墓のルーツとなる墳墓群が築かれました。また、畿内の前期古墳に阿波から吉野川南岸の結晶片岩の石材、水銀朱等が搬出され、阿波勢力がヤマト王権の成立に大きな影響を与えたことが分かってきました。

2世紀末～3世紀初頭の「萩原2号墓」(国指定史跡・右上写真)は、日本最古の前方後円形墳丘墓で、奈良県桜井市に築かれた3世紀中頃の「ホケノ山古墳」の起源であったことが分かりました。その後に築かれたのが3世紀前半の「萩原1号墓」、日本最古級の竪穴式石室をもつ3世紀中頃の「西山谷2号墳」(右下写真)です。この勢力が後の 阿波忌部族になったと見られます。

[2]阿波忌部による関東開拓

＊下立松原神社（千葉県南房総市）

807年の『古語拾遺』にあるように、天日鷲命の孫(大麻比古神の子の由布津主命-写真右)は、天富命に率いられ海路黒潮で房総半島に到達。麻・穀を植え産業を広めました。昔は、麻を「総」と呼びました。よって、千葉県は総国、上総・下総と呼ばれ、阿波忌部が居る所は故郷の阿波を偲び安房国と名付け、「安房神社」(館山市・写真下左)が建てられました。以後、常陸国・武蔵国・下野国などの関東地方を拓いてゆきました。栃木県小山市粟宮にも「安房神社」があります。東京都の浅草には酉の市で有名な「鷲神社」(おとりさま)(写真下右)が祀られていますが、阿波忌部の関東開拓の故事が「酉の市」の起源ともなりました。その他、伊勢・遠江・伊豆などの太平洋岸や石見・出雲などの日本海側にも進出していきました。

[3]天日鷲命の側面

天日鷲命の別名は天日鷲翔矢命で、日本の弓矢(良質の麻の弦)を作り出した神様として知られています。また、天照大神が天石屋戸に籠られた折、大神を琴の音色でお慰めして活躍した弦楽器(琴の麻の弦)の神様、日本の音楽・芸術の神様と伝えられています。つるぎ町一宇の「天磐戸神社」では忌部神楽(岩戸神楽)が伝えられています(表紙写真)。さらに初代神武天皇の東征を成功に導いた「金鵄」で、現在も「日の丸」のポールの金の丸として、日本国民を静かに見守っています。

※右写真は神武天皇像と金鵄

[4]日本の製紙の神様

阿波忌部は麻・穀(楮)の殖産に長けた集団であったが故に、日本各地に製紙技術(最初の紙は幣)を伝えました。よって、天日鷲命は日本の「製紙の始祖」として各地の和紙の産地に祀られています。烏山和紙(栃木県那須郡那珂川町の「鷲子山上神社」)、石州半紙(島根県浜田市の「大麻山神社」)、出雲和紙(島根県松江市の「穀木神社」)など。

※左絵-『江戸・東京紙漉史考』関義城 より

[5]日本の農業の神様

阿波忌部は、麻・穀・五穀などの種を携え稲作・畑作・織物技術など多様な農業技術を伝えたが故に、天日鷲命は農業神として各地で崇められています。千葉県印旛郡酒々井町の「大鷲神社」、茨城県土浦市大畑の「鷲神社」(右写真)など。石見国(島根県)では「天日鷲命は～我国農業の祖神。」と伝えられています。

[6]阿波国の国神・大宜都比売

『古事記』によると、阿波国の国神は大宜都比売と書かれています。天日鷲命とも兄妹関係にありました。オオゲツヒメは神山町神領の「上一宮大粟神社」(写真左)に祀られています。大宜都比売の別名は大御食津神、また、日本の偉大な食物の女神、日本の養蚕・五穀起源の神、日本最古の農業神でもありました。また、オオゲツヒメはユネスコ無形文化遺産となった和食の原点となる神様でもあります。

[7]日本各地の忌部氏

日本各地に忌部諸族は点在していました。手置帆負命を祖神とする讃岐忌部は香川県豊中市の「忌部神社」(写真左下)、彦狭知命を祖神とする紀伊忌部は和歌山市鳴神の「鳴神社」、櫛明玉命を祖神とする出雲忌部(出雲玉作の祖)は、島根県松江市東忌部町の「忌部神社」(忌部総社神宮寺)(写真右下)、天目一箇命を祖神とする筑紫・伊勢忌部など。その他、備前焼の祖を祀る岡山県備前市の陶祖「忌部神社」、福井県越前市織田町の「織田剣神社」(神官家が忌部。織田信長は忌部氏)。島根県隠岐郡隠岐の島町郡の「水若酢神社」(隠岐国一宮)の代々宮司は忌部氏などが挙げられます。これら諸族は阿波から広がっていったのではないかと見られています。

5. 天皇即位の大嘗祭と阿波忌部

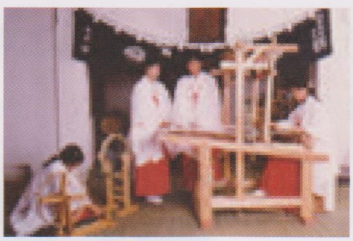
[1] 阿波忌部による「麁服」調進

三木家資料

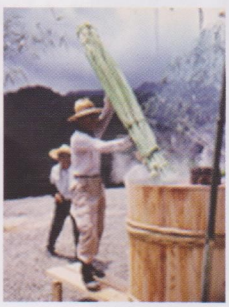
阿波忌部は、天皇が即位する一世一代の儀式となる大嘗祭に大嘗宮内の悠紀殿・主基殿の「第一の神座」に大王霊が宿る神衣として奉られる「麁服」(写真左) と呼ぶ麻の反物 (麻織物)を調進する重責を担ってきました。平安前期の『貞観儀式』や『延喜式』には詳細な記録があります。麁服を調進する忌部氏人は御衣人、代表は御殿人と呼ばれ、朝廷より派遣された勅使(荒妙御衣使)のもと、京の都へと入り麁服のみ神祇官に直接預り置かれ、大嘗祭の当日まで保管されました。

美馬市木屋平貢には三木家(徳島県最古の国重要文化財) (写真左)があり、歴代天皇の大嘗祭に関わる「三木家文書」が保管されています。三木家は、阿波忌部直系の御殿人で、鎌倉時代、1260年の90代亀山天皇を最古に、後伏見・花園・後醍醐・光厳・光明の6代天皇、合計14通の太政官符・官宣旨案等の古文書を保有しています。当時、国の公職にも就いてない三木家が、太政官符等の写しを保有していることは、当時の朝廷が阿波忌部の御殿人という伝統的な家筋を評価し、天皇家とゆかりの関係にあったことを示しています。

麁服の調進は南北朝時代以来途絶えていましたが、三木家当主・三木宗治郎等の尽力で1915年(大正4)、大正天皇の大嘗祭に577年ぶりに復活されました。昭和天皇の大嘗祭は1928年(昭和3)に行われ、同じく三木宗治郎が麁服奉仕者となり、麁服が調進されました。前回、今上天皇の大嘗祭は1990年(平成2)の11月22日に行われました。徳島では1989年(平成元)8月に「木屋平村麁服貢進協議会」、10月に「山川町麁服貢進協議会」が結成され、麻畑が木屋平村貢の三木家に、麻植郡山川町の「忌部神社」に織殿が作られ、宗治郎の孫となる三木信夫氏が会長となり再び麁服が調進されました。下記の写真は今上天皇の大嘗祭の時のもの。

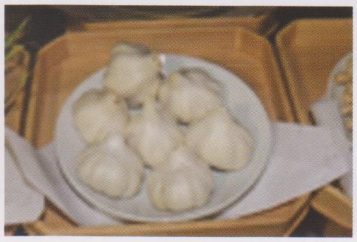


三木家資料



[2] 大嘗祭と由加物

大嘗祭には、麁服とは別に由加物(御贄)が貢進されました。麻植忌部は、麻布や木綿、吉野川の鮎、ニンニクの漬物、ギシギシ、サトイモ、橘子(すだち)など。那賀郡の海女(潜女)からは、加工アワビ、鮨アワビ、巻貝、ウニなどが調達されました。忌部と海部の協力関係は平安時代よりありました。由加物は神聖なる供物であったのか、通る道は掃き清められたといいます。由加物は、千年以上前の阿波国の大嘗祭ブランドであったといえます。



6. 阿波忌部と徳島の産業

[1] 阿波藍

阿波藍は阿波忌部が作る荒妙(麻布)を染めるために始まったとされ(『藍の館』)、江戸時代には日本中を席巻し、ジャパンブルーと呼ばれました。その色はサッカー代表ユニホーム、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのロゴマークにも採用されました。

[2] 阿波和紙

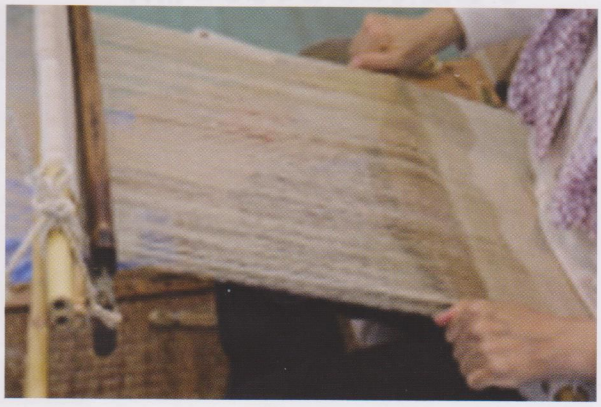
阿波和紙は天日鷲命が創始したと伝わります。歴史は古く、奈良時代に『正倉院』にも納められました。1890年(明治23)には、パリ万博・シカゴ万国博覧会での出展に加え賞状授与も受け、世界にその名を響かせました。吉野川市山川町に「阿波和紙伝統産業会館」があり、伝統が継承され世界各国より和紙作りを学ぶ人が集まってきています。

[3] すだち

すだちは徳島を代表するブランドです。大麻山の見える所でしか育たない、大麻神が愛した果実と伝えられています。

[4] 太布

国重要無形文化財、那賀郡那賀町木頭に伝えられる太布は、阿波忌部が作る木綿であったとも考えられています。木綿は穀・楮の繊維で作られた古代の織物です。 現在、阿波太布製造技法保存伝承会がその技術と文化の継承にあたっています。



7. 伝えたい阿波忌部の精神

[1] 日本各地に残る阿波忌部の精神

● フロンティア精神

日本各地に進出し多様な産業を伝播させました。特に海路黒潮で房総半島にわたり関東を拓きました。

・阿波忌部族の上陸地に建てられた「布良崎神社」(千葉県館山市)(写真右)

● 産業興しの精神

良質の麻・穀を植え、日本各地に農業・生活・産業・文化の基盤を築きました。

● 共存共栄・平和の精神

「安房神社」境内の忌部塚(写真右)には、房総半島に農業・漁業・建築技術をもたらし、先住民族とともに力を合わせて房総の地を切り拓いたとあります。

● 相互扶助・救済の精神

茨城県結城市小森の「大桑神社」には、阿波忌部なる者がこの地を通ると、大桑の木が茂り、その部落の人の欲するまま蚕を与え、養蚕の仕方を教えたとあり、それが「結城紬」のもとになりました。千葉県勝浦市の阿波忌部末裔の伝では、天変地変の時は、自給自足をして皆で分かけ合って命をつなげるのは忌部の義務だといいます。

※右写真は大桑神社

[2] 大麻山の麓に受け継がれた忌部の精神を世界に

● お接待とおもてなしの精神

四国霊場と四国遍路は日本遺産に指定され、世界遺産への登録運動が進んでいます。

一番札所「霊山寺」は、大麻比古神社の別当寺でした。

● 共存共栄・平和の精神

第一次世界大戦中における鳴門市大麻町板東の人々とドイツ人俘虜との奇跡の交流は世界記憶遺産に申請されています。鳴門はアジア第九初演の地であり,「バルトの楽園」で映画化されました。

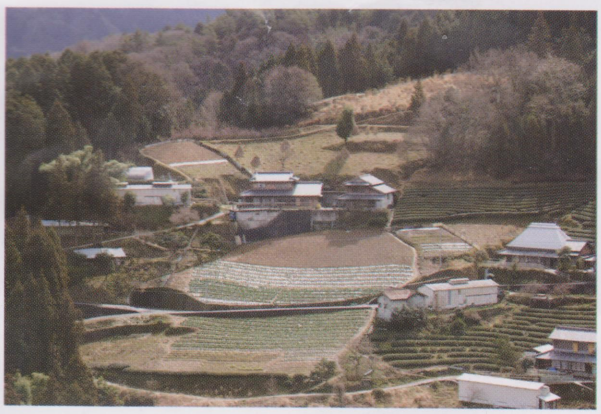
右写真は鳴門市ドイツ館です。

● 相互扶助・友愛・平和の精神

鳴門市大麻町ゆかりの社会運動家・賀川豊彦(豊と彦は「大麻比古神社」の祭神より命名)は、世界三大偉人の一人とされています。神戸スラム街での献身的活動、生活協同組合運動、日本農民組合の創設、関東大震災でボランティアの先駆、核兵器廃絶運動、世界連邦活動を行いノーベル平和賞候補にもなりました。

8. 阿波忌部の伝統農業が世界農業遺産に!

剣山系に拠点地をもつ忌部族は、ソラと呼ばれる天空の集落でカヤを有効に利用しながら傾斜地農業(自然循環型農業)を営んできました。2018年3月にこの伝統農業は、国連食糧 農業機関(FAO)の世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。また、豊かな食文化と民俗、日本の桃源郷を思わせる景観が評価され、農水省は「食と農の景勝地」と日本農業遺産に認定しました。その伝統農業のシンボルは肥料となるコエグロ(カヤ束)です。剣山系には、持続可能な社会を実現する多種多様な思想・知恵・技術・民俗が息づいています。



一般社団法人 忌部文化研究所

発行＊一般社団法人忌部文化研究所 776-0001 吉野川市鴨島町牛島 1572-1 (株)松島組内 TEL0883-36-1147

HP:http://www.awainbe.jp/ ＊著作権保護のため無断転載を禁止します。